

我が県土  
支え育む  
希望郷



美しい

# 県土づくりNEWS

2018年

6月

岩手県 県土整備部  
手づくり広報誌第167号  
平成30年6月29日発行  
編集 県土整備企画室

## 目次

- 1 宮古・室蘭フェリー就航  
～岩手県初のフェリー定期航路が宮古港に開設～
- 5 【復興支援道路】(仮称)押角トンネルの貫通式を開催！
- 7 【復興支援道路】一般国道107号(仮称)梁川トンネルが貫通！！
- 9 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました
- 10 東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望を実施
- 11 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！  
～フェリー航路と連携した広域的な交流連携・観光振興～



# 三陸復興

## 宮古・室蘭フェリー就航

～岩手県初のフェリー定期航路が宮古港に開設～

港湾課

6月22日、本県初のフェリー定期航路である、宮古・室蘭フェリー航路が開設されました。

午前8時に第1便が宮古港を出港し、市民ら多くの方々による見送りの中、岩手県と北海道を結ぶ新たなかけ橋として、運航をスタートしました。

宮古・室蘭フェリー第1便として宮古港を出港するシルバーフェリーと、青い記念タオルを振ってフェリーを見送る市民ら



## 宮古港での出港セレモニー

第1便の出港に先だって、午前6時30分から各種セレモニーが催され、乗客や市民ら多くの方々がフェリーターミナルに集いフェリー航路開設を祝いました。

フェリーターミナル1階では、青山学院女子短期大学によって企画・制作された壁画の除幕式が行われました。この壁画は、「物流・観光の拠点となるフェリーターミナルに、港湾（海）を利用して未来を拓く岩手県の将来構想の象徴」として設置されたもので、青山学院女子短期大学の学生だけでなく、地元宮古市や室蘭市、さらには地震被害にあった熊本県の児童生徒らも壁画の制作に参加しました。



フェリーターミナルに設置された壁画

フェリーターミナル前では、地元宮古市に伝わる「黒森神楽演舞」が披露され、獅子頭が体の一部をかむ「身固め」をシルバークィーンの前川船長らに行い、安全運航を祈願しました。

その後、車両乗船口前では、室蘭行きトラックの第1便乗船を祝う初荷出荷式が行われました。



安全運航祈願の「身固め」

フェリーターミナルの2階搭乗口前では、山本宮古市長や川崎近海汽船(株)の赤沼社長による挨拶のあと、各関係者の手によりテープカットが行われ、約600人の乗客が続々と入船しました。

そして、出港時間の午前8時には、宮古市立第一中学校吹奏楽部の生徒らによる吹奏楽演奏、藤原ふ頭に駆けつけた約1,000人の地元市民らが一斉にタオルを振って見送るなか、記念すべき第1便が出港しました。



第1便に乗船するトラック



就航を祝うテープカット



船を見送る吹奏楽演奏

室蘭港への入港セレモニー

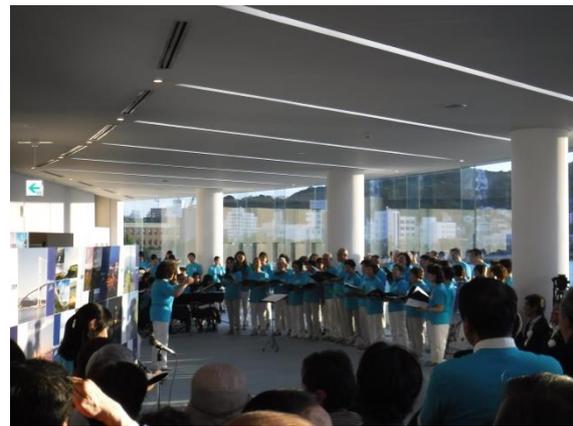
宮古港を午前8時に出港したフェリーは、同日午後6時に室蘭港に入港しました。同港フェリーターミナルには、市民ら約1,200人が詰め掛け、宮古発第1便の入港を見守りました。

船からターミナルへ向かう人道橋には、地元の児童生徒らが手作りの小旗を両手に持ち、「室蘭へようこそ」と呼び掛け、10時間の船旅を終えた乗船客を温かく歓迎してくれました。

また、室蘭市の中学生による吹奏楽演奏や合唱団体による歓迎の歌など様々な催しが行われ、宮古市と同様に室蘭市においても、新たなフェリー航路に対する期待の大きさが伝わってきました。



人道橋で「室蘭へようこそ」と呼び掛ける児童ら



歓迎の歌が披露されている様子

宮古・室蘭フェリー航路開設までの経緯

時期	内容
2015.3.10	川崎近海汽船(株)が、航路開設計画を公表
2015.11.15	宮古港へのフェリーの試験入港
2016.3.7	川崎近海汽船(株)が、フェリー航路開設決定を公表
2016.6.9	宮古港フェリー利用促進協議会を設立
2016.8.6	宮古港フェリー利用促進協議会が、第1回目の宮古・室蘭フェリー航路セミナーを開催
2017.4.3	川崎近海汽船(株)が、宮古・室蘭航路の運賃を発表
2017.6.19	沿岸広域振興局と北海道胆振総合振興局が、フェリー航路開設を契機とした連携推進に関する協定を締結
2017.9.1	川崎近海汽船(株)が、就航日を2018年6月22日と発表
2018.6.1	フェリーターミナル落成式
2018.6.22	宮古・室蘭フェリー航路就航

## 宮古・室蘭フェリー航路の概要

- 1 航路 宮古港～室蘭港（334km）
- 2 使用船舶 シルバークィーン  
（総トン数 7,005t、全長 134m、最大旅客定員 600名）
- 3 ダイヤ 1日1往復  

宮古発 8:00	⇒	室蘭着 18:00
室蘭着 20:00	⇒	宮古着 6:00
- 4 想定貨物
  - (1) 南下便（室蘭→宮古）：宅配貨物、冷凍食品、活牛等
  - (2) 北上便（宮古→室蘭）：宅配貨物、冷凍食品、野菜等



牛をのせ待機しているトラック

## 宮古港フェリーターミナル概要

フェリーによる港湾利用拡大や観光、地域の賑わいの拠点として整備され、バリアフリーに配慮した利便性の高い「フェリーターミナル機能」と、津波襲来時の「避難機能」を併せ持つ施設です。

建物の外観は、コンクリートに囲まれた無機質な空間に映えるベージュ系の配色とし、「さざなみ」を表現する縦リブ外壁材や、「水面のきらめき」を表現するメタリック塗装材を使用しています。これにより、「太平洋から昇る朝日を受けて輝く宮古湾の波」を表現しています。



宮古港フェリーターミナル外観

## 航路開設によって期待される効果

- ① 物流コストの削減  
航路開設によって、荷主や運送事業者にとっては、北海道との取引における貨物輸送の選択肢が増え、輸送コスト削減による競争力向上、取引拡大が期待されます。
- ② 地域産業の活性化  
地域にとっては、新しいインフラができ、物流と人の動きが拡大することにより、物流関連産業をはじめ、製造業や観光産業等各産業の活性化につながることを期待されています。



岩手県と北海道をつなぐ  
新たなかけ橋となる新航路を  
ぜひご利用ください！

# 【復興支援道路】 （仮称）押角トンネルの貫通式を開催！

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

県が「復興支援道路」として宮古市和井内から岩泉町大川地内で整備を進めている一般国道340号<sup>おしかど</sup>押角峠工区において、主要構造物である（仮称）押角トンネル（L=3,094m、以下「押角トンネル」という。）が貫通し、平成30年6月5日に貫通式が開催されました（実貫通：平成30年4月4日）。

当日は、県、関係機関、地元関係者、工事協力会社、大川小学校・釜津田小学校・釜津田中学校の児童生徒等約150名が出席しました。

貫通式では、岩泉町長から「地域の産業、文化の発展に大きく影響する。台風10号からの復旧に向け、住民にとって大きな希望となる。」、宮古市長から「両地域にとって長年の懸念だった。命の道などとしての役割は大きい。」と祝辞をいただきました。

大川小学校の郷土芸能愛護少年団のみなさんには、押角トンネルの貫通を祝して、長田剣舞を披露していただきました。

県では、2020年度内の押角トンネル開通を目指して、引き続き事業を推進していきます。



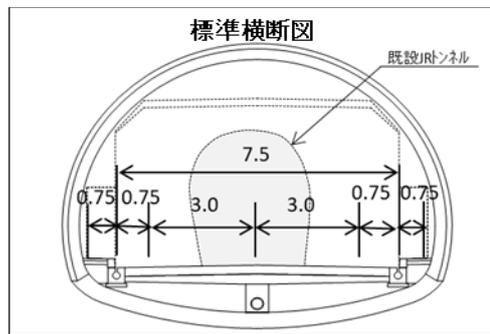
## 【一般国道340号押角峠工区事業概要】

一般国道340号押角峠工区は、宮古市和井内地区から岩泉町大川地区を結ぶ延長約3.7kmの道路改良工事です。当区間は、幅員狭小で急カーブ、急勾配が多数存在し、安全で円滑な通行に支障となっていることから、廃線となったJR岩泉線の単線鉄道トンネルを拡幅し、2車線の道路トンネルにするため、平成26年度に事業化しました。

本工区の開通により、**距離が2.4km短縮され、所要時間が14分短縮**されるほか、雪崩等が発生する峠部への**トンネル整備により冬期間の交通環境が大幅に改善**されます。

また、**農業・林業等の基幹産業などの物流の効率化**や宮古市～岩泉町間の**観光ルート強化**による地域活性化が期待されます。

工区名	一般国道340号 押角峠
区間	起点: 宮古市和井内地区
	終点: 下閉伊郡岩泉町大川地区
延長	3,740m (トンネル延長: 3,094m)
幅員	車道6.0m 幅員7.5m (トンネル部)
	車道6.0m 幅員9.5m (一般部・橋梁部)
車線数	2車線
道路規格	第3種第3級
設計速度	50km/h



# 【復興支援道路】

## 一般国道 107号(仮称)梁川トンネルが貫通！！

～ 「復興道路」へのアクセス向上に向けて！（仮称）梁川トンネルが貫通～

県南広域振興局土木部

県が「復興支援道路」として奥州市江刺梁川から北上市口内町地内で整備を進めている一般国道107号<sup>やながわ くちない</sup>梁川～口内工区において、主要構造物である（仮称）梁川トンネル<sup>やながわ</sup>（L=1,022m、以下「梁川トンネル」という。）が貫通し、平成30年5月29日に工事受注者主催による貫通式が開催されました（実貫通：平成30年4月20日）。

貫通式には、県、北上市、奥州市、地権者、工事関係者等約150名が出席しました。また、梁川トンネルの掘削工事に当たり、現場見学会に参加していただいた北上市立口内小学校（5～6年生）及び奥州市立梁川小学校（4～6年生）の皆さんにも出席していただきました。

式典冒頭の貫通発破では、細川県南広域振興局長、県議会議員等と一緒に両校児童の代表者にも発破のボタンを押していただき、平成29年2月のトンネル掘削工事着手から約1年3か月の歳月をかけて施工してきた梁川トンネルが無事貫通しました。その後、関係者による貫通点通り初めを行い、参加者一同の盛大な万歳三唱で梁川トンネルの貫通を祝いました。

県では、平成30年度内の梁川トンネル開通を目指して、引き続き全力で事業を推進して行きます。

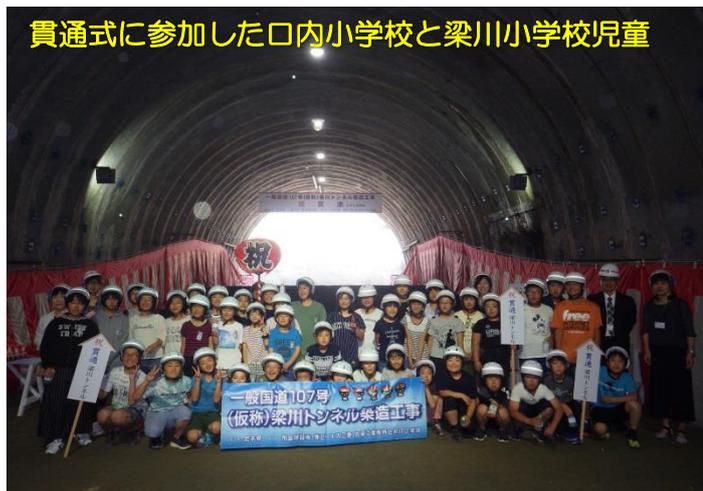
関係者と小学校児童による貫通発破



貫通点通り初め



貫通式に参加した口内小学校と梁川小学校児童



梁川トンネル実貫通の瞬間  
(平成30年4月20日)



【梁川～口内工区の事業概要】

一般国道107号は、沿岸部と内陸部を結ぶ幹線道路であり、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の際は緊急輸送道路として大きな役割を果たしたことから、県では、岩手県東日本大震災津波復興計画（三陸復興道路整備事業）において「復興支援道路」に位置づけ、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築を目指しています。

奥州市江刺梁川から北上市口内町の区間は、急カーブや急勾配が連続する隘路となっており、交通事故が多発するなど安全で円滑な通行の支障となっていることから、県が平成25年度から梁川～口内工区の整備を進めています。

当工区の整備により、「復興道路」である東北横断自動車道釜石秋田線の江刺田瀬ICへのアクセス性が向上し、工業集積地である県南部と重要港湾等が位置する沿岸部を結ぶ道路ネットワークが強化され物流の効率化や産業振興等が図られるほか、峠部へのトンネル整備により冬期間の交通環境が大きく改善されます。

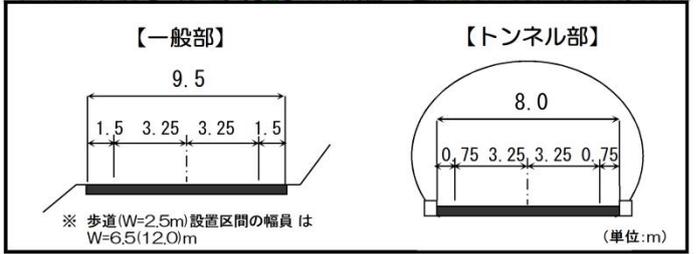
一般国道107号梁川～口内工区の事業概要



計画概要

計画延長	2,690m	
計画幅員	一般部	6.5(9.5-12.0)m
	トンネル部	6.5(8.0)m
道路の区分	第3種第2級	
設計速度	60km/h	

標準断面図



# 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました

## 建設技術振興課

平成30年6月20日、「第26回優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を盛岡市の建設研修センターで開催しました。

この表彰は、優れた建設現場従事者を広く表彰することにより、「ものづくり」に携わっている者の誇りと意欲を増進させ、これらの方々の能力と資質の向上を図るとともに、その社会的評価・地位の向上を図り、**建設業の健全な発展に資することを目的として実施**しているもので、建設産業構造改善推進週間の一環として、平成5年度から開催しているものです。

**今年度の受賞者は6名**で、表彰式では保副知事から**表彰状と建設マスターの徽章**が授与されました。

### 【受賞者一覧】

受賞者名	所属会社	所在地
岩渕 直喜	(株)岩渕建設	一関市
倉澤 久美	(株)青紀土木	釜石市
小林 学	紫波建設(株)	紫波町
佐藤 恵三	(株)電友社	奥州市
白間 正人	斎藤工業(株)	宮古市
千葉 匡光	大森工業(株)	一関市



# 東日本大震災津波等からの復興と 地方創生の推進に当たっての提言・要望を実施

県土整備企画室

6月8日、国の関係省庁や自民党本部に対し、「東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望」を行いました。

本県では現在、第3期復興実施計画に基づき、被災者一人ひとりの復興を成し遂げるべく、より良い復興「三陸復興・創造」に全力で取り組んでいるところです。

また、平成28年台風第10号災害からの復旧・復興も早急に進める必要があります。

加えて、地方創生は復興と並ぶ喫緊の課題です。

県は、「復興の確実な推進に必要な予算の確保」、「被災地復興のための人的支援」、「復興の実態に応じた取組の継続」等の震災津波等災害からの復興に向けた項目のほか、地方創生推進に係る項目を、復興庁等関係省庁や自民党本部に対して要望しました。

(併せて、県政課題全般事項として「2019年度政府予算等に係る提言・要望」を実施)

引き続き、震災津波や台風災害からの早期復旧・復興、地方創生、国土強靱化等の取組を推進していくとともに、今後も継続的に国へ働き掛けていきます。



復興庁への要望状況  
(左から、達増拓也 岩手県知事、  
吉野正芳 復興大臣、長坂康正 復興大臣政務官)



自民党への要望状況  
(左から、達増拓也 岩手県知事、  
額賀福志郎 自民党東日本大震災復興加速化本部長、  
藤原崇 衆議院議員)

## 【復興関連の主な要望内容（県土整備部関係）】

- ラグビーワールドカップ2019™開催に係る支援
- 直轄事業の着実な推進
- 社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた確実な予算措置
- 被災地の繰越手続の簡素化及び復旧・復興の進度に応じた予算配分
- 高田松原津波復興祈念公園の早期整備
- 高規格道路等の適切な管理体制の確保
- 津波対策施設に係る維持管理費等に対する財政措置
- 被災者の生活再建に対する支援
- 平成28年台風第10号災害における公共土木施設等の早期復旧及び財政措置の充実

※ 要望書の内容は、岩手県公式ホームページで公開しています。

(トップページ > 県政情報 > 政策 > 政策推進 > 政府予算への提言・要望 > 2019年度政府予算等に係る提言・要望 (平成30年6月8日実施))

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第8回】

フェリー航路と連携した広域的な交流連携・観光振興

岩手県初のフェリー航路開設を復興道路が後押し

- 6月22日、宮古港と室蘭港を結ぶフェリー航路が開設（本県初！）
- 航路選定理由
  - ① 復興道路等の整備により県内各地や仙台圏、首都圏へのアクセスが大幅に向上
  - ② 高速料金が無料(東和～花巻間を除く)で東北縦貫道経由より輸送コストが安価
  - ③ 三陸沿岸道路沿線地域は積雪量が少なく冬季の安定的な輸送が可能
  - ④ 宮古市は三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の2本の軸の結節点
  - ⑤ 船上で移動中(約10時間)にトラックドライバーの休憩時間を確保

被災した沿岸地域の観光振興を支援！

- 沿岸地域には、三陸復興国立公園や三陸ジオパークなど様々な観光資源が存在
- 宮古港と室蘭港を結ぶフェリー航路と復興道路等が連携した広域的な交流連携・観光振興等の地域産業活性化を期待
- 北海道からインバウンドを含む新たな観光客を期待



▲ 6月22日 フェリー航路開設！

復興道路とフェリー航路



※ 岩手県内の復興道路・復興支援道路は無料です。

三陸復興国立公園




三陸ジオパーク




▼観光入込客数の推移と期待  
(※宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)

